



南部町立南部中学校 学校だより R7 第12号

城山の風

令和7年9月19日(金)

校長 樋口 信也

第15回輝城祭—共創を体現—

第15回輝城祭は、雨のため文化の部だけを13日(土)に、体育の部は16日(火)に延期して実施しました。

1. オープニング

文化の部は生徒会執行部によるオープニングから始まりました。映像を交えた寸劇で、全校生徒に対して、輝城祭が目指すものを改めて意識づけるものでした。続いて3年生によるソーラン節です。なかなか思ったようにいかず焦りもあったようですが、卒業生の指導も受けながら取り組み、当日は素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。私が特に印象に残っているのは、最初の構えの腰の低さと途中のジャンプの高さです。動きにメリハリと切れがあり、格好良く迫力のあるソーラン節でした。



2 開祭式

○全校制作の披露

全校制作は、一人一人の輝城祭への意気込みを書いた色画用紙をモザイク画のように貼り合わせ、テーマである共創の文字を表したものでした。全校生徒一人一人が意気込みを直接語ることは時間的にできないので、互いに思いを知ることができる貴重なものとなりました。



○学級旗の紹介

学級旗は、各クラスの特徴や輝城祭に対する意気込みを表しました。ひまわり、ライオン、クラス全員の顔、担任の先生の顔、デザイン化された象、ドラゴンとバラエティに富むものでした。

3. 1年 内船歌舞伎『吉例曾我 対面の場』

化粧をして衣装を身につけた役者達が体育館に入ってきたとき、その美しく勇壮な光景に、会場がどよめきました。言葉も言い回しも違う長い台詞、普段はしない動きや所作、とても難しかったと思いますが、内船歌舞伎保存会の方々の指導を受け、見事に演じ上げました。地域の伝統文化の素晴らしさと生徒達の一生懸命な姿に感動しました。



4. 2年 演劇『夏休み』

戦後80年の今年、2年生が選んだのは戦争と平和をテーマとした演劇でした。昭和11年、小学6年生の子どもたちには、みんな夢がありました。しかし、戦争が始まると特攻や空襲でみんな夢半ばで亡くなってしまいます。戦争は、大人も子どもも関係なく夢・未来・命を奪ってしまいます。戦争を、昔のこと、自分たちとは関係ない世界のこととしてではなく、自分事として考えるきっかけとなるとても意義ある演劇でした。



5. 美術文芸部発表

美術文芸部は、輝城祭のために制作した作品を披露しました。折り鶴を折り、それを貼り合わせて海をテーマにした大きな作品に仕上げました。迫力あるマンタを中心に海の世界がきれいな色使いで表現されていました。披露の瞬間、「おおーっ」という声が上がりました。また、展示コーナーには、絵画や切り絵、陶芸など普段の部活で作った作品も展示され、訪れた人の目を楽しませていました。



6. 吹奏楽部発表

吹奏楽部は、総勢12名で、「Paradise Has No Border」「青と夏」「かわいだけじゃだめですか」「名探偵コナンのメインテーマ」の4曲演奏しました。中学生だけでなく、大人も知っている曲もあり、みんなで楽しめました。ただ普通に演奏するのではなく、曲と曲の間にMC（トーク）をはさんだり、生徒が指揮をしたり、工藤先生がドラムを叩いたり、楽しい工夫がたくさんありました。



7. 3年 演劇『うさみくんのお姉ちゃん』

3年生の演劇は、生徒たちと同年代の高校生の物語でした。うさみくん姉弟と友人が織りなす、見ている人がやさしい気持ちになれる演劇でした。現代の高校生の日常が舞台だったので、生徒たちにとっては普段の自分たちとあまり変わらず、演じることが難しかったと思います。しかし、みんなとても上手で、役になりきっていました。後味すっきりの学園ドラマでした。



8. 全校合唱

文化の部の最後は全校合唱でした。輝城祭の発表の中で全校で取り組むのは全校合唱だけです。校歌の合唱バージョンと『リフレイン』の2曲を歌いました。迫力ある歌声を響かせ、文化の部を終えました。